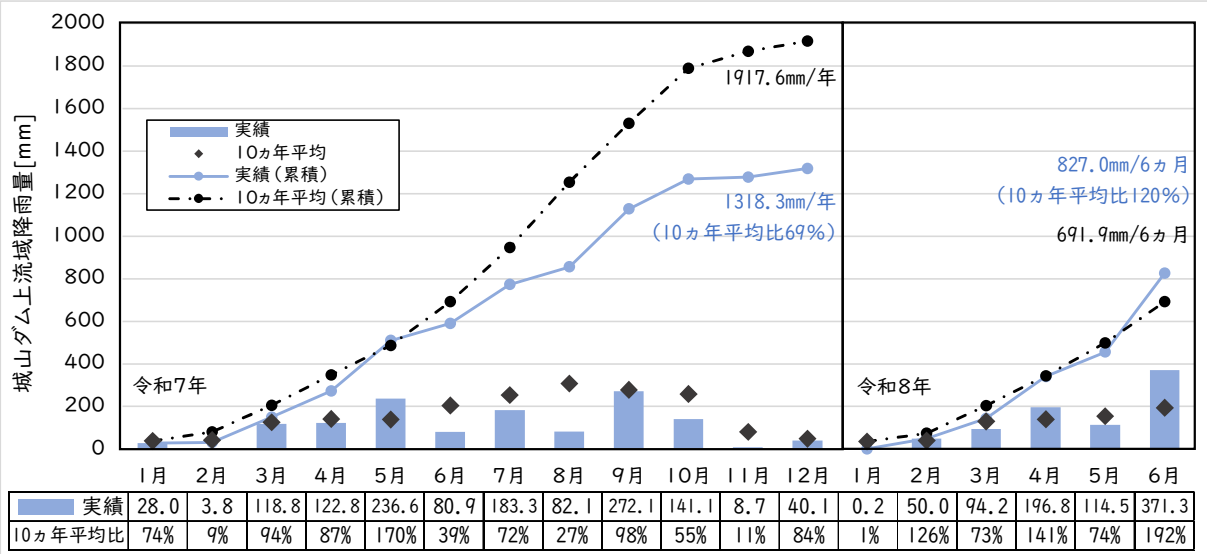


令和8年春期渇水に係る「かながわの水がめ」の状況と対応

1 令和8年春期渇水の概要

令和7年夏以降、神奈川県内ダム上流域において、顕著な少雨傾向となりました。
この少雨傾向により、相模川水系3湖合計貯水量※1は、過去最低を記録し、厳しい状況となりました。
相模川水系の貯水量を温存するため、[相模川水系と酒匂川水系間の連携](#)等により、水の安定供給に努めました。
その後、台風6号等による降雨もあり、県民に対して節水の呼び掛けや給水制限等を実施することなく、[渇水に強い神奈川](#)の水運用により、令和8年春期渇水を乗り切ることができました。

※1：相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖の合計



相模川水系の月別降雨量（令和7年1月～令和8年6月）と累積降雨量

2 令和8年春期渇水に係る対応一覧

開始年月日	対応内容（一部、台風の影響による降雨含む）
令和7年8月30日	酒匂川水系への水源振替開始
令和7年12月25日 ～令和8年1月13日	酒匂川水系への水源振替量を段階的に増量
令和8年3月3日	県内の水道5事業者※2が水道事業者渇水対策本部を設置
令和8年3月5日	東京都への分水量の減量（50％）開始（日量約22万㎥から約11万㎥へ）
令和8年6月3日	（台風6号の影響による降雨） 酒匂川水系への水源振替を中断
令和8年6月8日	県内の水道5事業者が水道事業者渇水対策本部を解散
令和8年6月9日	東京都への分水量の減量（50％）解除
令和8年6月25日 ～6月28日	（台風7,8号の影響による活発化した梅雨前線による降雨）
令和8年6月29日	酒匂川水系への水源振替を終了

※2：神奈川県営水道、横浜市水道局、川崎市上下水道局、横須賀市上下水道局、神奈川県内広域水道企業団

【参考】相模川水系と酒匂川水系間の連携による、酒匂川水系への水源振替



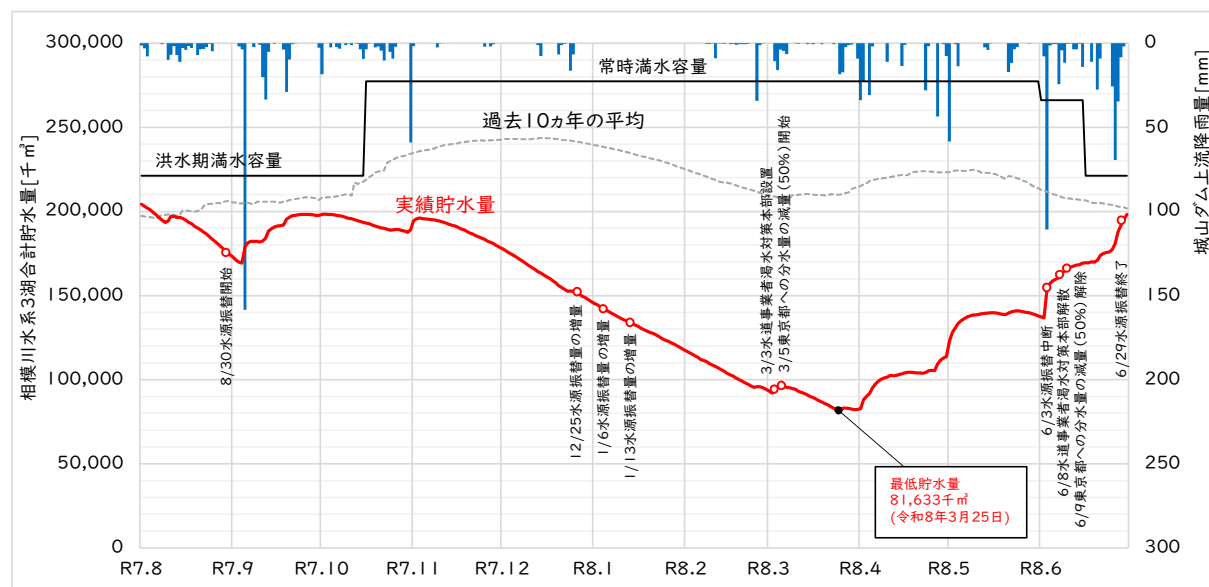
酒匂川水系への水源振替
(酒匂川水系の取水量を増やし浄水場に水を送ることで、相模川水系からの取水量の削減ができ、相模川水系の貯水量を温存できます)

3 貯水状況の推移

3.1 相模川水系3湖合計貯水量の推移

令和7年の少雨傾向を受け、酒匂川水系への水源振替を実施しているところではありましたが、令和8年に入ってから相模川水系3湖合計貯水量の減少が継続し、令和8年3月25日24時時点で、宮ヶ瀬ダム完成（平成13年）以降で過去最低となる約8,000万 m^3 （29%）を記録しました。

その後は、定期的な降雨、6月の台風6号や台風7,8号の影響による降雨もあり、貯水量が回復しました。

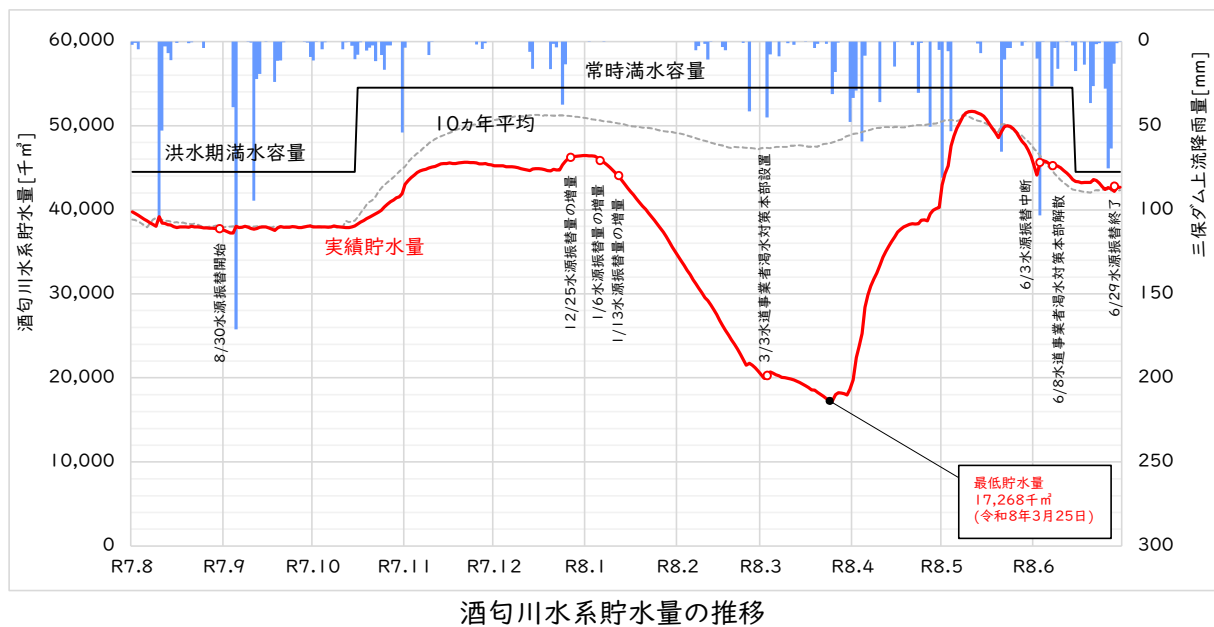


相模川水系3湖合計貯水量の推移

3.2 酒匂川水系貯水量の推移

令和7年の酒匂川水系貯水量は、相模川水系同様の少雨傾向により、令和7年12月末時点で、約4,600万 m^3 （85%）となり、平年と比べて低い貯水量となりました。

令和8年に入り、少雨傾向に加えて、水源振替を増量した影響もあり、令和8年3月25日24時時点で、酒匂川水系貯水量が約1,700万 m^3 （32%）となりました。



【参考】令和8年春期渇水における各ダム最低貯水量の状況と満水時の状況写真

・津久井湖（城山ダム直上）貯水率10%



・相模湖（相模ダム直上）貯水率53%



・丹沢湖（三保ダム直上）貯水率32%

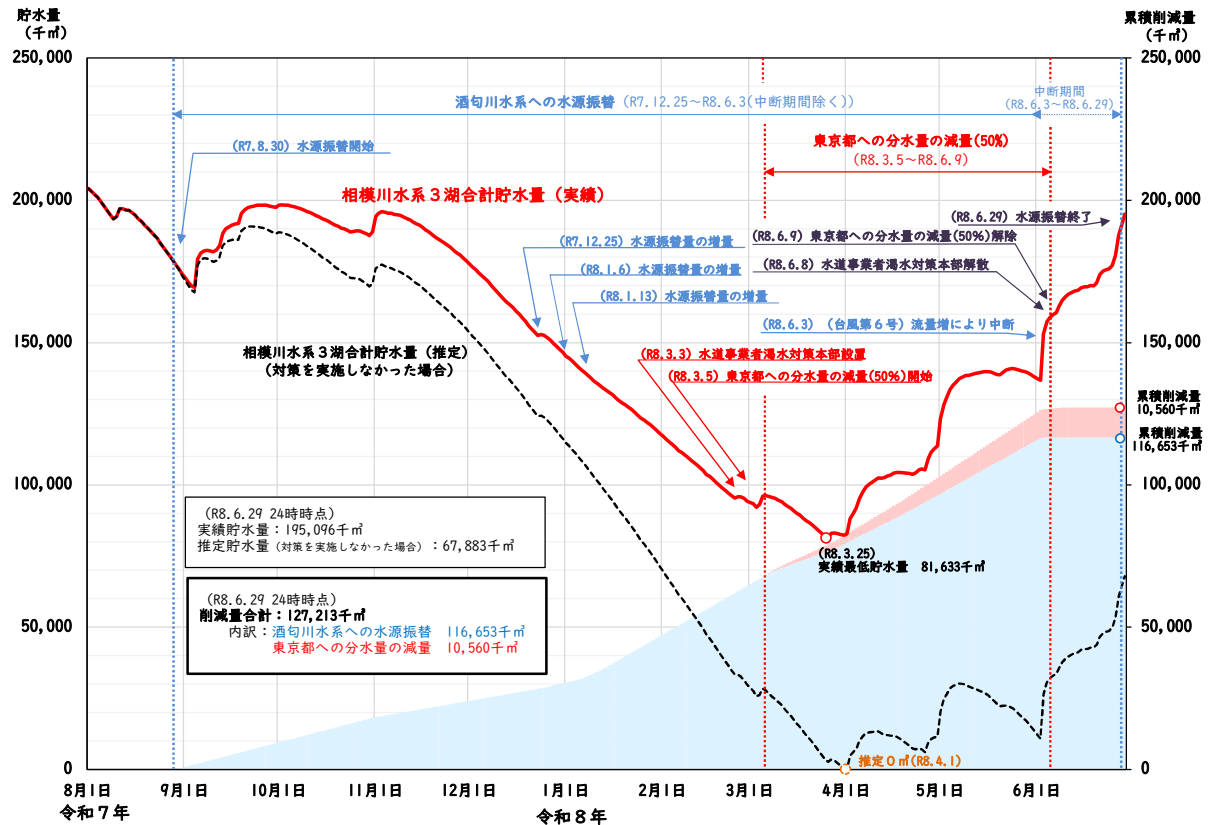


4 相模川水系3湖合計貯水量の温存効果

「酒匂川水系への水源振替」及び「東京都への分水量の減量（50%）」の実施による相模川水系3湖合計貯水量の温存効果※3は、約1.27億 m^3 となり、城山ダム満水量の2杯分相当の水を温存したこととなります。

仮に対策を全く実施しなかった場合は、令和8年4月上旬頃に、相模川水系3湖合計貯水量が底をついていた可能性があります。

※3：「酒匂川水系への水源振替」による振替量及び「東京都への分水量の減量（50%）」による削減量の合計



相模川水系3湖合計貯水量の温存効果

5 関連リンク

[・かながわの水がめ（県内の貯水状況）](#)